



827
41

江城日誌

第十四

西垣文庫 特
文庫 10
7292
14



特 文庫10
7292
14

太政官 翻
刺頒行本



江城日誌第十四號

五月廿九日

慶應四戊辰年五月

西垣文庫

○小田原出張軍監ヨリ之伺書へ第十三號
附札之寫

一其地、而和船雇入可相廻候事

一此方より斬罪之儀ハ先見合加賀守へ三ヶ条
之趣吃度及糺問書付差出候上當府へ可伺出
候事

一伊州出張之兵隊當分之間其表、滞陣被
仰付三雲爲一郎為軍監被差殘候條小田原函

嶺等取締被

仰付候事

今更此方より催促實功為立候之ハ不及候得

共乍慎為相勤不苦候事

一家中之者一統歸家謹慎被

仰付候事

一城中用意米其俵差置加賀守家来共ハ可被為

任置官軍兵隊兵食之儀ハ是迄之通り江川太

郎左衛門より仕向被

仰付候事

五月

○御沙汰書之寫

今川侍従

品川侍従

前田侍従

六角主税

前田愿十郎

岡田整之助

大久保與七郎

勝田綱吉

坪田嘉兵衛

座光寺為益太郎

菅沼左近將監

右本祿如旧下賜候事

五月三十日

○奥州出張黒羽藩より届之字

去月廿二日白川表御参謀より奥州旗宿迄出兵可致旨御差圖、付同日領分追分村迄三小队外、施條炮一門繰出、翌廿三日旗宿より

操入同廿四日拂曉賊兵棚倉表よりの間道越追分村三軒之処二軒放火烧失且賊兵三十人余襲来村方の者一人為手負候段同村見張之者より旗宿本陣へ注進有之依て夫々手配り罷在候処卯半刻頃棚倉往還より賊兵多少不相分候得共凡七十人程にて炮發有之不取敢戦争、及追々賊兵敗走中野番澤村入口迄二十四町程之処追拂賊兵散乱り候間人数旗宿へ引上候得共同所東西葉山續殊、奥州へ之間道多く地利不立何分一手にてい番兵

難届就^レ白坂宿へ兵隊繰入其段早速御参
謀方へ御届仕候処追而白川表へ繰入之相成
候迄同所へ警衛致^シ候様御差圖^ニ付大垣藩
一同警衛罷在候同廿六日卯半刻頃右宿最寄
之而天王山と中森林之賊兵五小队屯集致^シ
炮發依之大垣藩二小队當家三小队并大炮一
門兩勢を以炮戰午刻過賊兵敗走之及討取
生捕分取等猶追而取調之上御届可申上候得
共不取敢右之段御届申上候以上

五月

黒羽藩隊長

五月廿三左衛門

江川太郎左衛門

頃日箱根辺之殘賊豆州網代辺屯集之趣ニ相
聞候ニ付人数繰出^シ早々掃攘可致旨御沙
汰候事

五月

○奥州出張薩藩より届之寫

昨廿七日三字頃より北ノ方十八町位御座候

會津街道筋大谷地村ヲ根據トシテ追々成山
上ハ兵ト分配一襲來候ニ月二番隊四番隊足
輕大垣一小隊土州二小隊位左右ハ相分ニ進
擊候必五字過ニ至リ賊退散ヨリ大谷地村迄
致追討候既ニ夜ニ入候ニ月大谷地村白川
之要口ニ月燒拂六字過ニ兵隊都ニ引揚申候
討取候死骸十五六位も御座候哉山中諸處之
戰ヲテ碇ト取調不行届瓦右内外ト御座候歎
山中諸處ニ屯集ヨリ千人内外も御座候趣
御座候此段不取敢御届申上候以上

五月

○忍藩より届之寫

下總守領分武州秩父郡大宮郷へ去る廿三日
怪鋪跡之者立入候ニ付取押取調候也
瀧川渡其外共都合十二人飯能ヨリ被討洩候
者ニ付斬首仕候以上

五月

○小田原より届之寫

林昌之助始脱走之賊徒日金道より熱海真鶴
辺ニ心差候様子ニ付討手ヨリ箱根宿より

三小隊分配仕差向申候

一昨廿七日箱根之而及戦争候節

一首級 七ツ 孕石帶刀手之討取申候

一生捕 一人 是ハ林昌之助下僕之由

御座候

別通

一首 二級

但豆相境日金之而打取申候

一首 九級

但相州底倉村字堂ヶ島之而打取申候

右之段御届申上候

大久保加賀守家来

五月廿九日

郡 権之助

湯本村

箱根宿

同権現社領

此度兵火焼失之付右村々へ御救米軒別之一俵
宛合七十八俵被下置候事

六月

佐土原藩

御牧重太郎

右者先達而豆相軍監附屬とて小田原表へ
出張被仰付置候処箱根と而戦死り候趣
御座候此段御届申上候以上

六月

佐土原藩

官版 不許翻刻

御用御書物所

東洞院三條寺町

村上勘兵衛

堀川二條下町

井上治兵衛

